

高体連ボクシングニュース vol.6



令和元年8月3日 全国高体連ボクシング専門部 発行

準決勝の内容と決勝の見どころ

ネット配信中

● ピン級

準決勝 荒竹(鹿児島)vs大木(静岡)

1R サウスポー同士の一戦は右ジャブの探り合いで始まる。荒竹が積極的に手数を出す、大木も負けずに反撃する。2Rは荒竹が頭の位置を変えながらワンツーや返しのフックで積極的に攻撃した。3R 大木の左右のボディが決まる場面もあったが、荒竹も休まず攻撃を続けた。判定は5-0で荒竹であった。敗れたとはいえ大木はまだ1年生であり将来性は十分にある。

準決勝 尾崎(大阪)vs田端(宮崎)

1R 両方の勝負をかける意気込みが伝わってくるほど鋭いワンツーを放しながらぶつかり合う。2R 二人とも手が止まらない打ち合いに、両者の応援席もヒートアップしてきた。白熱した戦いは、ほぼ五角の内容の中で最終ラウンドへ。3R 意地のぶつかり合いは続いたが尾崎がヒット数でやや上回り3-2で勝利した。敗れたとはいえ地元応援を受け健闘した田端にも拍手を送りたい。

決勝戦 荒竹 一真(鹿児島県/鹿屋工業) - 尾崎 優日(大阪府/興国)

サウスポー同士の戦いは選抜準決勝の再戦である。この時は荒竹が完勝しているが、尾崎もレベルアップしており今大会も好調であり。序盤のペース争いで勝負が決まる可能性あり。軽量級らしいキビキビした戦いが予想できる。

● ライトフライ級

準決勝 高見(東京)vs中山(福岡)

1R オープニングは高見の右ボディがヒット。中山も右ストレートを放つ。高見はフットワークで前後左右にリング内を動き、多彩なパンチを繰り出している。2R 中山もパンチを繰り出すが、高見がブロック、ステップでかわし自在にパンチを出しヒットさせる。3R 中山がカウンターやクロスを狙うもヒットにはつながらず5-0で高見が勝った。

準決勝 吉良(奈良)vs野田(千葉)

1年生同士の準決勝は学年を感じさせないハイレベルな戦いであった。1R 吉良は左ジャブを巧みに使い攻撃を組み立て、野田も圧力に負けずワンツーを放つがヒットは少ない。2R 野田が距離を取ろうと左ジャブで応戦するが吉良の前進が止められない。3R 吉良の圧力に対して野田はホールドとプッシュが多くレフリーから注意が入った。判定は4-1で吉良にあがった。

決勝戦 高見 亨介(東京都/目黒日大(通)) - 吉良 大弥(奈良県/王寺工業)

多彩な攻撃と素早いステップで他者を寄せ付けず勝ってきた高見に、1年生とは思えない落ち着いた試合運びで勝ち上がった吉良がどんなファイトで挑むか? 将来有望な二人の戦いは超高校級の好試合が期待できる。

● フライ級

準決勝 平塚(栃木)vs横山(大阪)

1R 積極的に仕掛ける平塚と内から攻める横山であるが、ジャブの打ち合いで両者の頭が浮いてしまう場面もあった。2R 開始早々横山が積極的に出るが、平塚も負けじと応戦する。お互い一步も引かないスリリングな展開で2R終了。3R お互い勝負に出た。白熱した打ち合いは、横山が時より平塚の左をもらう場面が多くなっていく。積極的に攻めた平塚が5-0で決勝に進んだ。

準決勝 藤田(神奈川)vs中山(福岡)

1R 藤田のワンツーに対して中山は左フックを合わせる。中山はスピーディーな左で距離を取る。2R 中山はジャブで藤田を誘い、カウンターを狙う。接近戦では藤田がストレートからの左ボディをヒットさせる。3R 離れて中山、接近戦で藤田、両者の巧さが目立つ。大接戦の末、3-2で中山が勝利した。

決勝戦 平塚 駿之介(栃木県/作新学院) - 中山 隼大(福岡県/東福岡)

平塚はフットワークを使いながら長身の中山を崩したい。中山はリードを多用し自分の距離で戦いたい。全国初制覇のかかる両者の戦いは前半の主導権争いが勝敗を分けると思われる。

● バンタム級

準決勝 松本(愛媛)vs大橋(愛知)

1R シンプルでオーソドックの松本は、ワンツーを上下に打ち分けぶれないボクシングをする。大橋もステップしながら反撃を狙うがかわされてしまう。2R 大橋も仕掛けるが、左ストレートを抜かれ反撃される。お互いのロープに詰める場面では、ともにディフェンスよく対応する。3R 大橋の右フックに対して松本もすかさずストレートで反撃。シンプルに攻めた松本が5-0で勝利した。

準決勝 原田(福岡)vs山崎(大阪)

1R 開始から原田は積極的に攻めていたが、中盤からは山崎も手数を増やして五角の展開。2R お互い攻撃とクリンチの繰り返しが多い。離れ際に原田のフックがヒットするが、山崎も距離を取りながらの攻撃がさえる。3R 荒々しい原田の攻撃に対して山崎のワンツーがヒットする場面もあり、両者もつれ合いながら最終のゴング。勝者は5-0で山崎であった。

決勝戦 松本 敬人（愛媛県/松山工業）－山崎 裕生（大阪府/興国）

ここまで安定して勝ち進んでいる松本に、山崎の左がどのように効果をあげるのか。相手との間合いの取り合いと手数勝負を分けると予想される。

● ライト 級 堤

準決勝 堤(千葉)vs 祝(福岡)

1R 堤は落ち着いてステップを踏み、祝にプレッシャーをかける。後半に左ストレートで堤がダウンを奪う。2R 祝も積極的に攻撃に転じるが、堤は冷静に対応する。不意を衝く左ストレートが祝の顔にヒットする。3R 祝は勝負をかけ攻撃するがヒットは少なく、逆に堤のボディ攻撃が冴える。判定は5-0で堤が勝利、4冠目に挑む。

準決勝 円谷(茨城)vs 藤原(大阪)

1R 円谷は先手を取りに行くが、藤原もしっかり見極め反撃する。互角の勝負で終了。2R 白熱した展開になるとクリンチが多くなり審判から注意が入る。3R 攻撃とホールドの繰り返しが多くなる。勝利への執念から両者のパンチが交錯する場面もあるが、クリンチが多く消耗戦であった。判定は4-1で藤原にあがった。

決勝戦 堤 麗斗（千葉県/習志野）－藤原 仁太（大阪府/興国）

昨年インターハイから国内負けなしの絶対王者の堤に、勢いのある藤原が挑む。藤原もパワー、技術ともに高いものがあり決勝にふさわしい試合になることは間違いない。

● ライトウェルター 級

準決勝 森脇(東京)vs 脇田(宮崎)

1R サウスポーの森脇とオーソドックスの脇田は、開始から全力でパンチを出し合う展開となる。2R 脇田が開始から攻めに出るが、森脇も反撃し互角の展開である。3R 打ち合いの中にも接近して脇田、中間距離で森脇の一進一退の攻防に会場は盛り上がる。「ラスト 30 秒」の大きな声援とともにさらに激しい打ち合いとなり終了のゴング。接戦は3-2で脇田にあがった。

準決勝 田中(神奈川)vs 高橋(千葉)

二人の関東ブロック対決は幾度も行われている。1R 田中は積極的に出るが、高橋も左右に動いて迎え撃つ。2R 前が出る攻撃が光り田中が優勢に見えたが、後半は高橋のサイド攻撃が勝る。3R 勝負ラウンドは互いに良い部分を発揮してこれぞボクシングといえる白熱した好勝負であった。勝利の女神は4-1で高橋に微笑んだ。

決勝戦 脇田 夢叶（宮崎県/日章学園）－高橋 麗斗（千葉県/沼南）

二人とも準決勝を強敵相手に僅差の判定でものにしている。脇田は勢いに乗る森脇を撃破し、高橋はライバル田中の攻撃をかわした。俊敏な脇田のフットワークに柔らかな高橋のボディワーク、ともにクリーンヒットを許さない高レベルの試合が期待できる。

● ウェルター 級

準決勝 山本(熊本)vs 四宮(京都)

攻撃面で山本、技術面で四宮の戦いであった。1R 四宮はジャブで距離をはかろうとするが、山本はパワーで接近する。四宮も負けじとワンツーで反撃。2R リングを広く使う四宮と追う山本は、共に持ち味を発揮する。両者とも有効なポイントが取れなく模索する中で終了。3R 山本の左フックや右ストレートも当たり出した。四宮も足でしのぎ反撃したが、5-0で山本が勝利した。

準決勝 和賀(岩手)vs 梁(大阪)

1R 軽快なフットワークから攻撃するサウスポー梁と、ステップは少ないが右を得意とする和賀は、静かな立ち上がりであった。2R お互いに攻めあぐみ攻撃のチャンスがない状況で、接近してもクリンチになり自らのペースに持ち込めない。3R 和賀が攻めるも梁はステップでかわし、互いに思うような試合ができていない中で終了のゴング。際どい判定は3-2で梁を指示した。

決勝戦 山本 諒真（熊本県/東海大熊本星翔）－梁 章太（大阪府/大阪朝鮮）

山本はパワー十分で打ち合いを望み、梁は左右に動きながら自分のペースに持ち込みたい。山本は梁の足を止めて打ち合いに持っていけるか？梁が山本の強打をかわしてアウトボックスするか？対称的な二人の戦いに好試合が期待される。

● ミドル 級

準決勝 仲野(奈良)vs ウエノ(愛知)

1R ウエノは足を使ってアウトボックスしたいが、仲野の前進が止められずコーナーに追い込まれダウンを奪われる。2R 前進する仲野にウエノの左カウンターがヒットし会場は盛り上がるが、仲野は強引に強いパンチを繰り出す。3R ウエノも有効的パンチをヒットさせるが、打撃戦では仲野が一枚上である。激しい打撃戦の中で試合終了。仲野が5-0で勝利して明日2冠を狙う。

準決勝 甲斐(熊本)vs 松野(宮崎)

九州ブロック対決は、1R 甲斐が優位に試合を展開していたが、終盤の打ち合いで松野の左フックがヒットし甲斐にカウントが入る。2R 甲斐は負けじと反撃するが松野のワンツーから下がりながらの左フックがヒットし会場は大いに沸いた。3R 開始早々コーナー付近で打ち合いが展開され、クリーンヒットと同時にレフリースが割って入り、試合を止めた。松野がRSCで勝利した。

決勝戦 仲野 玲（奈良県/清和清陵）－松野 晃汰（宮崎県/日章学園）

仲野のパワフルな攻撃が功を奏するか？松野のガードを固めた粘り強いボクシングか？迫力ある重量級対決は後半までもつれる展開が予想される。